沢田勝義氏ブラジル人学校へマスクを寄贈

沢田勝義氏（昭和 47 年度ブラジルポルトガル語学科卒・株式会社日本開発サービス取締役会長）は、滋賀県東近江市のブラジル人学校日本ラチーノ学院に中国から輸入したマスク 1,000 枚を寄贈しました。

同氏は、学生時代海外事情研究会に所属して、日本学生海外移住連盟(学移連)派遣「第一次学生総合実習調査団」として 1 年間ブラジルに派遣されました。卒業後は一貫してブラジル関係の業務に従事しています。

在日日系ブラジル人にも深い関心を寄せており、新型コロナウィルス感染拡大を憂慮して日系ブラジルはマスクの入手が困難である現状を鑑み、役に立って欲しいと同学院生徒にマスクを寄贈したものです。

同氏は、日本学生海外移住連盟(学移連)OB 会本部幹事、海外事情研究会 OB 会会長を務めており、業務の傍ら日ごろからブラジル関係のボランティア活動を行って居ります。

千葉県我孫子市在住の沢田氏に代わり、6 月 10 日同学院で行われたマスクの贈呈式には北田繁氏（昭和 46 年度英米語学科・卒校友会常任幹事）と谷村昭仁氏（東京農業大卒・学移連 OB 会西日本支部幹事）の両ラチーノ学院専務理事が生徒代表にマスクを手渡しました。

6 月 12 日付けの京都新聞滋賀県版にマスク寄贈の記事が掲載されました。





（引地正之
昭和 41 年度英米語学科卒・海外事情研究会 OB）

2020年6月12日京都新聞滋賀県版

梅雨もコロナ対策万全に

ラチーノ学院にマスク1000枚寄贈

「ブラジル人の役に」

京外大ポルトガル語学科OB

新型コロナウイルス感染拡大を受け、マスクが不足していた東近江市甲津畑町のブラジル人学校「日本ラチーノ学院」にこのほど、マスク1千枚が届けられた。

贈ったのは、京都外国語大ブラジルポルトガル語学科OBの澤田勝義さん(71)＝千葉県＝。仕事でブラジルとの事業を手掛けてきた澤田さんは学院の苦境を知り、「日本に住むブラジル人たちの役に立ちたい」と申し出た。

学院では、3月ごろからマスク不足が深刻化した。約200人の生徒は、学校が配布した2枚の布マスクを洗いながら使用していたという。カミムラ・カイオ学院長(51)は「子どもの健康を心配していたので、ありがたい」と語る。

マスクを手にしたブルーノ・タシロさん(15)は「ウイルスから自分を守るために必要なので、これから使っていきたい」と感謝した。(長谷川稔)



届けられたマスクを受け取る生徒たち
(東近江市甲津畑町・日本ラチーノ学院)